

目次
ご挨拶
プロジェクトの概要
これまでの取り組み
お知らせ

文部科学省では、優れた女性研究者がその能力を最大限発揮できるようにするため、大学や公的研究機関等を対象として女性研究者の研究と出産・育児等の両立支援を行うための女性研究者支援事業を行っています。この事業に、平成19年度名古屋大学提案の「発展型女性研究者支援名大モデル」が採択されました。

プロジェクトの概要

■支援1：多様な勤務形態に対応できる職場環境・制度の整備

安心して仕事と育児等を両立できるように、勤務体制の多様化と職場環境作りに力を注ぎます。また、病児保育・学童保育の導入なども目指します。

■支援2：発展型ポジティブ・アクション・プロジェクトの展開

女性教員の採用にインセンティブを与えつつ、発展的に女性教員の採用を促進するために、女性研究者を多く採用・昇進した部局に対して全学措置人件費を一定期間配分し、部局内人事に利用してもらうシステムの構築を目指します。

■支援3：仕事と子育ての両立支援システムの構築

インターネットを利用して、両立支援コミュニケーションシステムや在宅勤務支援システムを構築します。

■支援4：若手研究者の育成支援

将来女性研究者となる女子学生への支援として、女子大学生・大学院生対象の「女子学生エンカレッジセミナー」、女子中高生対象の「女子中高生理系進学推進セミナー」を開催し、理系進学の推進やロールモデルの提示を行います。

■支援5：女性研究者の交流支援

「女性研究者間ネットワーク」を構築するために、定期的な女性研究者交流会の実施と、インターネット上のソーシャルネットワーキングシステムを稼働させ、専門分野、機関を越えた女性研究者の交流を目指します。



総括責任者

名古屋大学は、これまで全学あげての取組として男女共同参画の推進に努め、他大学に先がけて男女共同参画の推進を目指した組織的な充実もはかってきました。また2005年12月には、女性教員増員を目指したポジティブ・アクションの姿勢を公募人事ホームページ等を通じて表明し、大きな反響を頂きました。この度、「発展型女性研究者支援名大モデル」が、平成19年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」に採択されました。これを機に、本学における男女共同参画の取組をさらに具現化し、一層充実させていく所存です。

名古屋大学総長 平野眞一



実施責任者

本事業は、女性研究者がその能力を十分に発揮できるような研究環境の整備や意識改革のための取組を支援するものです。実現に向けて、①多様な勤務形態に対応できる職場環境の整備 ②発展型ポジティブ・アクションプロジェクトの展開 ③ITを用いた仕事と子育ての両立支援システムの構築 ④若手研究者の育成支援 ⑤女性研究者の交流支援の5つを柱として実施していきます。本学の取組が全国の「女性研究者支援」のモデルとなるよう、全学あげて取り組んでいく所存です。

名古屋大学理事(人事・労務・法務関係担当) 佐分晴夫



実施総括者

これまでに、男女共同参画室では、女性研究者が抱える基本的な問題やニーズについて把握に努め、対策について地道に検討を重ねてきました。このたび「発展型女性研究者支援名大モデル」の採択を受け、様々なキャリアをもつ女性研究者を総合的に支援できるよう様々な取り組みを実現します。さらに、学生・教職員や市民への啓発や、他大学や地域社会との男女共同参画社会推進の連携を一層強化していきます。今後の活動の一層の発展のためにも、皆様からのご意見とご批判をいただければ幸いです。

男女共同参画室長 東村博子



これまでの取り組み内容

■支援1：多様な勤務形態に対応できる職場環境・制度の整備

○育児短時間勤務制度の施行

現在名古屋大学では育児・介護期間中の教職員を対象に、表1のような制度等が実施されています。しかしながら、これらの制度を利用する人はそれほど多くありませんでした。その理由としては、「職場の人に迷惑をかけたくない」、「一定期間休めない仕事」、「職場に育児休業を取りやすい雰囲気になかった」、「休業中収入が減る」などが挙げられています（2005年実施「次世代育成のための意識調査」）。また、短時間勤務制度の利用希望は高く、必要と考えている割合も高いという結果が得られています。これまでの育児休業制度では、完全に休業するか、一日2時間以内のみ休業するという選択肢がなく、柔軟な勤務体制の対応には困難なものでした。新しい育児短時間勤務制度を利用すれば、教職員が職務を完全に離れることなく育児を行うことができるようになります。

名古屋大学では、2008年4月から週40時間勤務の非常勤職員も取得可能とし、勤務形態は、週20時間（2パターン）、24時間、25時間の、4つのパターンから選択することができるようにしました。また、短時間勤務職員の余剰となる給与の範囲内で、非常勤講師又は、パート職員を採用することが可能になります。このような代替職員の確保により職場における仕事の遅延が軽減されることで、短時間勤務を取得し易い環境になることが期待できます。**もちろん、男性もこの制度を利用することができますので、積極的にご活用ください!!**



表1 育児・介護に関する諸制度等

育児休業	子が3歳に達する日まで連続した一定期間
介護休業	2週間以上にわたり常時介護を必要とする対象家族を介護するために6ヶ月まで
育児・介護休業時の 代替職員の採用	育児・介護休業をしている職員の業務を処理することが困難であると認めるときは、名古屋大学職員の任期に関する規程の定めるところにより任期を付して職員を採用することができる。
育児部分休業	子が小学校就学の始期に達する日まで1日あたり2時間以内、30分単位の休業
介護部分休業	1日あたり2時間以内、1時間単位の休業
育児中の近隣宿舍への入居の配慮	育児中の職員（配偶者が常態として子の養育をすることができる職員を除く）が入居する場合、近隣宿舍への入居を配慮する。
育児短時間勤務制度（平成20年度より実施）	子が小学校就学の始期に達する日までの1年以上1年以下の期間、以下の4つの中から勤務時間を選ぶことができる。 ・週20時間 5日/週、4時間/日 ・週20時間 3日/週、8時間/日を2日と4時間/日を1日 ・週24時間 3日/週、8時間/日 ・週25時間 5日/週、5時間/日
育児短時間勤務職員の代替職員の採用	職種及び職種内容により対応が異なるが、育児短時間勤務の余剰となる給与の範囲内で、非常勤講師又はパート職員等を採用することができる。

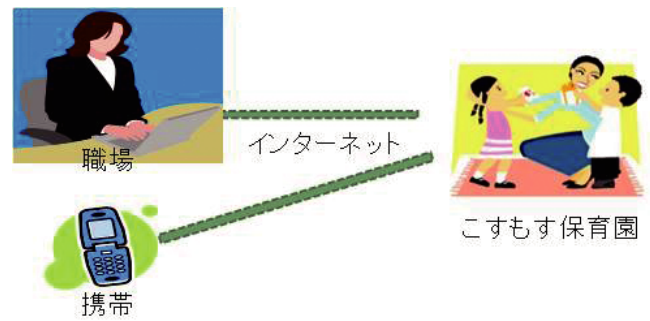
○子育て支援セミナーの開催（2008.3.1）

名古屋大学における育児に関する職場環境の整備状況や制度を広く周知するために、子育て中の教職員対象に歌のお姉さんによる親子ふれあいコンサートと交流会を柱にしたセミナーを行いました。本セミナーは、大学内における子育てネットワークを実際に広げ、今後の支援のあり方についても意見を収集することも目的としました。このため休日に開催し、たくさんの方に配偶者やお子さんと共に参加いただきました。教員や職員の垣根を越えて、子どもを育てながら働く際の悩みや情報を共有し、同じ立場で相談できる人々と交流することで、今後の育児ネットワークづくりのきっかけとなりました。



■支援3：仕事と子育ての両立支援システムの構築

インターネットを利用して、職場において利用しているネットワークサービスを自宅で利用できるようになりました（詳細は、お問い合わせください）。また、こすもす保育園を対象として、保育参観の遠隔視聴や送迎通知などの両立支援コミュニケーションシステムを開始しました。



■支援4：若手研究者の育成支援

○女子学生エンカレッジセミナーの開催

本事業では、将来女性研究者となる女子学生への支援として、女子大学生・大学院生対象の「女子学生エンカレッジセミナー」を年に2回程度開催しています。

I. 理系女子のためのクリスマス会（2007.12.18）

理学部の女子大学生である「あかりんご隊」が中心になって企画を行い、理系女子のためのクリスマス会を行いました。当日は学部生、大学院生、ポスドクなど総勢約100名の参加がありました。教員有志からの寄付によるケーキ・ドリンクと、持ち込みのクリスマスツリーなどで飾られた華やかな雰囲気の中、学年、部局を超えた交流が活発に行なわれました。また、会冒頭には名古屋大学産学官連携推進本部キャリアパス支援室ならびにセクシャルハラスメント相談所の担当者から各事業についてご紹介頂きました。短い時間ながら多くの女子学生・若手女性研究者同士のネットワークづくりに役立ったと好評でした。



II. 女性研究者による講演会（2008.2.20）

研究者として活躍の宇宙航空研究開発機構の仁田工美氏、東大の伊藤恭子氏、名城大の吉永美香氏を講師に迎え、女子学生エンカレッジセミナーを開催しました。講演終了後、女子学生と女性研究者間の交流会も開催されました。女子学生にとって、女性研究者と気軽に話す貴重な機会になり、身近なロールモデルが見つかったと好評でした。



○女子中高生理系進学セミナーの開催（2008.3.1）

本事業では、女子中高生の理系への進学を推進するために、年に2回程度女子中高生を対象とした理系進学推進セミナーを開催しています。昨年度は、仙台市副市長の岩崎恵美子氏による招待講演と女子大学生・大学院生、そして女性教員によるトークセッションの二部構成で開催しました。岩崎氏は中高生時代に医学を志した理由やきっかけの他、初の女性検疫所長を経て現職に至るまでの経緯を分かりやすくお話し頂きました。トークセッションやその後の懇親会では、中高生やその保護者から理系進学に関する質問が多数飛び出し、盛り上がりました。



■支援5：女性研究者の交流支援

○女子研究者交流会の開催（2008.1.11、2008.5.19）

本事業では、女性研究者間ネットワーク構築の一環として年に4回程度の意見交換昼食会を開催を予定しています。1月の開催時には、総勢26名の様々な分野の方の参加がありました。東村室長から本事業の説明の後、参加者全員が自己紹介を行い、最後にウェブ上でのネットワークサービスに関するアンケートに協力して頂きました。今後はこのアンケート結果を基によりよいネットワーク作りに生かしていきたいと考えています。自由に話す時間が多少短くなってしまいましたが、多くの参加者は予約時間いっぱいまで残られ、時間の許す限り活発な交流が行われました。





本事業

「発展型女性研究者支援名大モデル」のホームページが開設されました。

本事業の活動報告の他、今後の予定についても随時発信していきますので是非ご覧ください。

URL <http://www.nuws.provost.nagoya-u.ac.jp/jst/>



本プロジェクトのロゴ

(ロゴの説明) 女性研究者の発展的増加をイメージした階段と、素敵な女性をモチーフにして、名大カラーの緑色で表現されています。今後も様々なイベント、情報提供等を行っていきます。このロゴを目印にご参加ください!



男女共同参画コーナーができました!

生協とのコラボレーションにより、カフェフロントとIBカフェの一角に男女共同参画に関する本のコーナーCafe Libraryができました。女性科学者、女性のキャリア、育児関連の本のほか、名古屋各区の子育て情報もまとめて閲覧できます。所蔵書一覧は、上記ホームページで確認することができます。皆さん、ぜひコピー片手にご利用ください!



IBカフェ内のカフェライブラリー



名大祭期間中に、女子学生エンカレッジセミナー

＜映画「心理学者 原口鶴子の青春」上映とトークショー＞を開催します!

名大祭期間中の6月6日(金)に、映画「心理学者 原口鶴子の青春—100年前のコロンビア大留学生在が伝えたかったこと—」の上映とトークショーを野依記念物質科学研究所2階で行います。この映画は100年前の明治時代に、単身コロンビア大学に留学し、日本人女性初の心理学博士号を取得した原口鶴子という女性の一生をたどったドキュメントです。事前申し込みを受け付けています。詳しくはHP (URL:www.nuws.provost.nagoya-u.ac.jp/jst/) でご確認下さい。



鶴舞キャンパス女性研究者交流会を開催します!

7月24日の夕方(時間調整中)に鶴舞キャンパスにて交流夕食会を開催します。お弁当とコーヒーが付いて、会費は2000円で、事前申し込みが必要です。奮ってのご参加をお待ちしております。詳細については、近々ホームページにアップします。ご注目ください。



あかりんご隊に入りませんか?

あかりんご隊は、数少ない理系女子の交流の場をつくるために、理系女子学生によって誕生しました。現在、あかりんご隊では、学生エンカレッジセミナーなどの様々なイベントの企画運営や出張実験セミナーと一緒に協力してくれる理系女子を募集しています。また、今後のイベント情報がほしい方は、下記のE-mailアドレスまで登録希望のメールを送信してください。お待ちしております。acalingo@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

発行者 名古屋大学男女共同参画室
「発展型女性研究者支援名大モデル」
発行責任者 東村博子
E-mail kyodo-sankaku@post.jimu.nagoya-u.ac.jp
URL www.nuws.provost.nagoya-u.ac.jp/jst/

男女共同参画室メンバー 東村博子(室長・生命農学研究科准教授)
谷本千雅子(国際言語文化研究科准教授) / 吉田朋子(工学研究科准教授)
安藤妙子(工学研究科助教) / 大河内美奈(工学研究科准教授)
加藤ジェーン(情報科学研究科准教授) / 川瀬晃道(エコトピア科学研究所教授)
佐々木成江(男女共同参画室特任准教授 理学研究科担当教員)
荒井礼子(男女共同参画室特任助教) / 伊藤由起(男女共同参画室特任助教)
周囲(男女共同参画室研究員)